

KIND

金城大学 後援会会報誌【カインド】 2006年3月発行号(第5号)

夢を持って人生をきりひらく人を。
101年からの学園

100年の学園。その精神を受け継いで。

学園の歩み、1期生 朝日聰美、4年生 田中宏治／特集

高い就職率を維持

1、2期生の就職情報比較など／キンジョウライフ

学校行事：17年度入学式、卒業式、オープンキャンパスなど

クラブ活動：卓球部、女子バレー部、今年も全国大会で活躍。

トピックス：短大部合同の公開講座、北欧福祉研修、白山市との共同事業開催など

学園情報：金城学園101周年記念事業、遊学館高校野球部 甲子園・国体出場／活動レポート

17年度後援会総会などの報告

四つの教訓。

加藤せむ(学園創設者)／レポート

その精神を受け継いで。

金城学園は一〇〇年の歴史を刻みました。その中で、新時代に応える人材を輩出するため誕生した本学も、今年三期生を送り出します。福祉という領域で、夢を描き入学し、その実現のために社会で活躍します。

明治三十七年に私塾、金城遊學館が開校。
ゆるぎない教育への情熱が、今日の礎に。

100年の学園。



明治42年頃の木造校舎

金城学園は、一九〇四年（明治三十七年）に加藤廣吉、せむ先生のお二人が私塾、金城遊學館を金沢市に開校したことを始まりとして、二〇〇五年で一〇一年の歴史を刻みました。開校し、まもなく金城女学校となり、現在の遊學館高校に至ります。そして一〇一年の間に中学校、幼稚園、専門学校を開校し、一九七六年（昭和五十一年）には松任市（現白山市）に金城短期大学を、二〇〇〇年（平成十二年）に金城大学が開学し、幼稚園から大学までの課程を備えた学園に発展しました。今日に至るまで、様々な試練を乗り越えてきました。

創立者の加藤廣吉先生は、学校設立後すぐに他界され、その意志を受け継いだ加藤せむ先生は、常に学校の存続と廃校の瀬戸際に立たされていましたが、学校存続の並々ならぬ意志を貫き、経営に心血を注ぎました。経営のみならず、教育者としても手を抜くことなく、生徒一人ひとりに厳しく、また優しい指導を、自らの行動でもつて示し続けました。寮では、生徒の体調を気遣い、また校門の前では、天候の悪い日でも通学する生徒を出迎えました。「良妻賢母」、「率先垂範」の教育を徹底しました。

こうしたせむ先生の執念と苦闘によって、本学の基礎が作られました。



雑記帳（上）と出納帳（下）

明治、大正、昭和と、女子校として、数多くの女性が学び育ち、その伝統を受け継ぎ、今、福祉や美術というテーマを通じ、子どもや高齢者に優しい人格者を育成することを特徴とした学園として、社会に求められる役割を担っています。

そして学園は一〇〇年を節目に、先人たちの精神を受け継ぎ、一〇一年目から、また新しい時代への出発点と考えています。

一九三六年（昭和十一年）に加藤二郎先生が着任しました。深刻な経済不況により、失業者が増加し、戦争に突き進もうとしていた頃でした。学園は設立約三十周年を迎えるようとしていましたが、志願者は減り、退学者も増加しました。

母親である加藤せむ先生の背中を見て育った二郎先生は、こうした問題に対し、せむ先生が築いた精神を基に、いかに愛校心を高めるか、そのためには校風を創ることの大切さを掲げます。せむ先生の教育に注ぐ情熱と姿勢を「教育とは、云うて聞かせることではない、して見せることでもない、していることである」と、一言で表し、斬新な考え方を導入しました。「日本一の学校にしてみせる」と宣言し、戦前、戦後の激動の時代に、学園を発展させました。



リードバンドの日比谷公会堂での演奏会（昭和15年6月）



加藤せむ先生の「礼法教室」（昭和19年）



長距離サイクリング（昭和14年・南端国道にて）



リードバンドの練習風景（昭和18年頃）

すべての人にとって、住みよい社会をつくる
担い手になることが夢。
朝日聰美さん（一期生・平成十六年卒業）

小矢部市社会福祉協議会に勤めて約二年になります。普段は、総合相談やボランティア事業、情報誌の発行、その他の事務等の仕事をしています。仕事のやりがいは、地域の方、また、関係機関の方々とお会いし、その方たちと一緒に協力しながら地域に暮らす一人ひとりの幸せのために働くということです。

私が福祉に興味を持つたきっかけは、高校生の時に読んだ古典「うばすて」でした。年老いた義母を「役に立たないから捨ててきて！」と言った嫁に対して憤りを感じ、「こんな嫁のいる社会は駄目だ」と思いました。「すべての人にとって住みよい社会をつくる担い手になること」、これが高校生の頃からずっと抱いていました。私の夢でした。

今の仕事は、地域に住む様々な方と関わりを持てることが魅力的です。また、地域の方に名前と顔を覚えてもらえて、気楽に会話ができるようになつたことも、嬉しいです。そして何より、「ありがとうございます」の一言が私を元気づけてくれます。

失敗したこともあります。それは、相談業務の中で、相手を思つてしまつたことです。「思ひやる」ということは、こちらがすべてをやつてしまつたことがあります。それは、相談業務の自立を妨げる結果となつてしまつたことです。



まうことではなく、相手が自ら行動できる力を、どのようにして引き出していくか、ということであると学びました。

私は地域を良くしていきたいと思ってるので、この仕事が充実しています。自分が関わった事業が地域に反映された時の喜びははかりしれないものがあります。

仕事以外では、習い事やサークル活動等に通っています。学生時代から続いている手話もその一つです。ろうあの方達と話ができる大切なコミュニケーションの方法であり、話が通じるととても嬉しいです。今は、ろうあの方達のお役に立てるよう、手話通訳士の資格を取るために頑張っています。また、地元の友人や大学の卒業生と会うことが、私のリフレッシュになっています。大学では、勉強のほかに、サークル活動を通じて、かけがえのない友人達とも出会えました。仕事につくと、なかなか会うことはできませんが、今でも連絡を取り合い、お互いに励ましあっています。全国各地で活躍する友人の様子を聞くと、「よーし、自分も頑張ろう!」という気持ちになります。私も、そのように感じてもらいたい、信頼される人になれるよう成長していきたいと思っています。



私が初めてボランティアを行ったのは中学生の時でした。先にボランティア活動を行っていた兄に、人數が足りなくなつたと頼まれ、高齢者施設を訪問しました。最初は自ら高齢者と関わることができず、何をして良いのか悩んでいると、高齢者のほうから声をかけてくれ、いろいろな話をさせてもらいました。そこで高齢者と関わることの楽しさを知り、好きになりました。高校へ進学し、志望大学を決める時に、周りの勧めもあり、金城大学の社会福祉学部を迷わず受験し、入学しました。

大学では社会福祉に関する法律や制度、介護技術などを学び、高齢者を取り巻く環境、身体的な変化や心理的な変化など様々な分野を勉強しました。今春からは特別養護老人ホームで働くこ

**ボランティアがきっかけで入学。
国際大会など貴重な体験も活かして。
田中宏治さん(四年生・社会福祉コース)**

大学で学んだ社会福祉を生かして、今その夢に向かって働いています。その実現のために、自分はもっとと勉強する必要があると感じています。実際、社会福祉士の資格は持っていますが、専門職としては、まだまだ未熟であると痛感しています。地域の方のお力になれるよう、日々、成長できるよう一つひとつ仕事を一生懸命取り組んでいきます。



社会福祉法人 小矢部市社会福祉協議会

とが決まり、四年間の成果を発揮し、現場の方の経験、アドバイスを参考に福祉職として、より一段と成長したいと思っています。

そして、キンボールというニュースポーツにも出会いました。キンボールを通じて多くの友人ができ、交友関係が広がりました。先輩や後輩との交流や他県で競技をしているチームメンバーとの交流、そして日本代表として出場した世界大会では、生まれて初めて日本を飛び出し、海外の選手と国際交流も行うことができました。国や文化は違っていても同じスポーツをしている者同士つたない言葉での会話でしたが、ジェスチャーを交え一生懸命伝えようと理解してくれました。彼らも、解りやすい単語を選び、ゆっくり話してくれました。それでも全て聞き取れず、悔しい思いもしましたが、日本では絶対に経験のできない一生の思い出をつくることができました。

また、三年間、学友会役員を続けてきました。三年生の時には、学友会会长として、金城祭の準備、取りまとめに携わりました。短大部と合同での仕事でもあり、意見が対立し、まとまらない時も頻繁にありました。最初は自ら高齢者と関わることでできず、何をして良いのか悩んでいると、高齢者のほうから声をかけてくれ、いろいろな話をさせてもらいました。そこで高齢者と関わることの楽しさを知り、好きになりました。高校へ進学し、志望大学を決める時に、周りの勧めもあり、金城大学の社会福祉学部を迷わず受験をしました。

こうした幾多の経験から、人とコミュニケーションをとるコミュニケーションをとる大切さと難しさを学ぶことができ、社会に出て、今後の福祉活動にぜひ活かしたいと思います。





夢をもつて人生をきり開く人を。 101年からの学園。

原点である「遊学」の精神を次代に。
大学が中枢の役割を担います。

現在の加藤晃理事長は、未来の日本を築いていく人格者を育てることは、夢をもつて自分の人生を切りひらいていくことのできる人を育てること。夢をもつていつも新しいものに触れ、自分の世界を広げていくことを追求する人をサポートしたい、と言います。

高校を男女共学にする際、学園の出発点であつた私塾、遊学館の名前を復活させました。そして、さらに大学を開設しました。

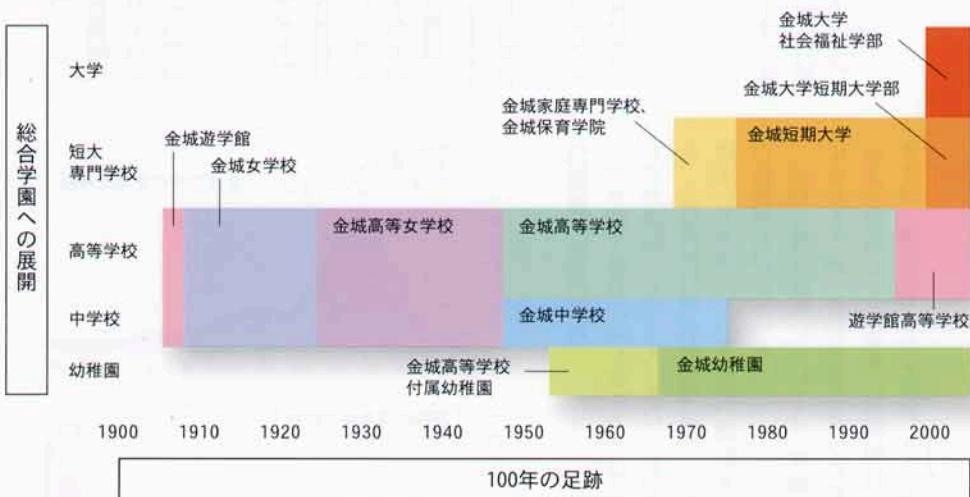
古いものを捨てたわけではなく、これまでの学園で培われた「遊学」の精神を、また新たな時代に向けて展開しています。

これから学園にとって、大学の存在はたいへん重要な位置を占めています。来年、現在の社会福祉学部に加え、医療と福祉の中間を担う学部を新設する予定です。

金城大学は今年三期生を社会に送ります。金城学園の長い歴史と強い精神を受け継ぐ卒業生が、伝統に育まれた誇りと自信を持って、社会に活躍されることを、学園はこれからも見守り続けます。



短大建設工事風景（昭和50年頃・左手が加藤晃理事長）



101年からの学園。

高い就職率を維持できました。

二〇〇五年三月、二期生が卒業しました。若年層のフリーター増加という厳しい環境において、本学では、キャリア教育を重視した就職支援事業を続けており、二年目も高い就職率を維持できました。

●雇用環境について

正社員として働く職場が、以前に比べ激減しています。新卒者を採用し、職業能力養成を企業が行うという日本の雇用習慣は今や解体しつつあります。

企業は、正社員の採用を抑制しつつ、即戦力として中途採用を増やしています。経済の景気回復や、団塊世代の退職によって、新卒者の求人は改善傾向にありますが、正社員抑制の方針転換はそれほど期待できません。

第二の特徴は、パートタイマーやアルバイト、派遣社員、契約社員などの非正規雇用(フリーランス)の著しい増加です。総務省が五年ごとに実施している「就業構造基本調査」によれば、一九九七年から二〇〇一年までに正規雇用が三百九十九万人減少する一方で、非正規雇用は三百六十八万人増加しています。正規雇用減少の年齢層別では、二十一～二十四歳層が百八十六万五千人で、四割以上を占めています。

第三の特徴は、正社員の労働時間の増加です。正社員の減少につれて、仕事の「量と責任」が一人に集中するようになりました。新規学卒者が就職後三年以内に会社を辞める割合は三割です。(中卒は七割・高卒は五割で、七五三現象とも言われます。)

経済環境と雇用環境の変化が複雑に混在した、新たな「就職氷河期」を迎えていたのが現状かと認識しています。このような状況で、本学のキャリア教育への取り組みが今後更に重要になってくると考えています。

●本学の就職状況

福祉施設・医療施設等への就職者は、三百一
（七十九・八パーセント）

二年間で福祉施設・医療施設等への就職者は、三百一名(七十九・八パーセント)で、企業の医療・福祉業種への就職者数を含むと三百十六名(八十三・三パーセント)となります。今春卒業する第三期生もほぼ同等の結果になると予想しています。

介護職が一百四十名（七十五・九パーセント）

福祉施設・医療施設等への就職者の職種は、介護職が二百四十名(七十五・九パーセント)と圧倒的に多くなっており、社会福祉コースからも多くの採用されています。これは、病院を含む高齢者等施設から介護職としての求人が多いことは勿論ですが、反面、障害者施設・児童施設等からの求人が少ないことが要因となっています。

福祉施設等への就職を希望する学生には、ボランティア活動等を通じ、早期から希望施設と関係をもつてアドバイスしています。

一年連続、全国一位にランクイン

福祉に特化している本学では、前述の現状とはかなり異なります。就職結果(就職率)は、週刊東洋経済(雑誌)の「本当に強い大学特集・就職に強い学部(文系)」で二年連続全国第一位にランクインされました。

企業へは「厳選採用」への気流れ

企業への就職者が六十六名(十七・五パーセント)、医療・福祉業種への就職者数を差し引くと五十一名(十三・五パーセント)となります。例年三年生に行う調査では、企業を希望する学生数は企業就職者数の約二倍となっていますが、半数は福祉施設・医療施設等にシフトした結果となっています。原因是、企業の「厳選採用」への気後れと「採用の早期化」に対応できずに出遅れていることだと分析しています。企業を希望する全ての学生が出遅れることなく就職活動に入れるよう強力に支援していきます。



企業と施設では、採用計画や時期が大きく異なります。

データ：企業の内々定確定時期は、(株)ディスコ 企業の新卒採用調査(2005年度)、施設の採用決定時期は、(福)全社協 中央福祉人材センターの資料を参考に作成。

公務員・教員採用

二年間で教員の職に就いた人は六名(正規採用二名・非常勤講師四名)です。また、公務員は、四名のみでした。「教員採用試験対策講座」、「公務員採用試験対策講座」を実施していますが、講座受講だけでなく、相当の自助努力が必要です。

公務員教養講座については、就職試験・筆記試験対策にもなるため、公務員希望者以外にも積極的に受講するよう誘導しています。受講料は、二万五千円となりますが、価値あるものと判断しています。



社会福祉士国家試験結果と対策 : 現役合格者は、平成十五・十六年度ともに三十二名

二年間の本学合格率は、十九パーセント（受験者三百三十九名／合格者六十四名）です。全国平均は二十九パーセントです。まずは、全国平均の合格率に追いつくことを目指しています。平成十七年度は、百六十三名受験しました。

本学では、現役合格のための支援を、次の四本の柱で構成しています。四年生だけでなく意欲ある一年生も参加しています。

- ①対策講座：前期十三科目／夏季集中四科目／後期十三科目／直前十二時間。
- ②模擬試験：学内模試四回／全国統一模試二回。
- ③サークル活動：グループをつくりメンタル面を支え合う。
- ④過去問題解くDAY：前期四回／後期四回。

合格には、過去問題を徹底的に解いて知識を積み上げること、速読ができるこどもポイントです。また、午前の部百十五分間・午後の部百二十五分間の長丁場において集中力を持続しなければなりません。

● 支援体制

本学の進路支援については、「就職進学委員会」が企画・立案し、行事等の運営は、「就職進学支援室」が行っています。進路について「早期からの気付き」をテーマとして、入学した四月の「自己発見レポート」から三年生前期のガイダンスまで、学年に応じた内容で計画的に支援行事を実施しています。遅くとも三年生の夏休み中には、卒業後の進路を見据えてもらいたいと考えています。

三年生後期から具体的な就職活動に入ります。全員の希望を把握し、それに応じたアドバイスができるよう「個人面接相談会」を実施しています。また、「企業」「福祉施設等」毎に、各研究会・内定者報告会などを実施しています。

第1期、2期生の就職状況

就職・進学状況

(単位:人)

	1期生	2期生
就職希望者	169	211
就職者	168	209
未就職者	1	2
進学者	5	7
大学・大学院	3	5
短大・専門学校	2	2
その他	6	9

就職率(%) **99.4** **99.1**

就職率は就職希望者数における就職者数の占める割合を示すものです。

業種

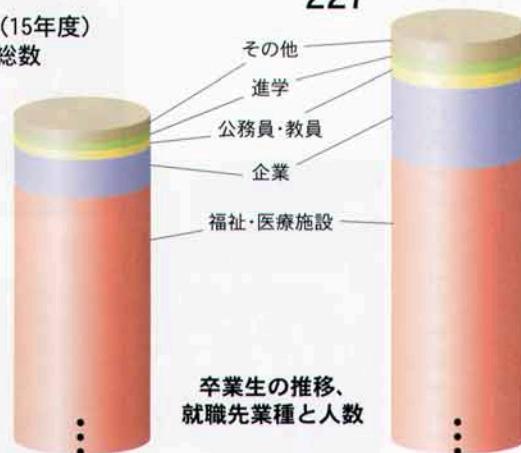
	1期生	2期生
福祉・医療施設(計)	142	159
高齢者施設	104	97
障害者施設	17	35
病院・医療施設	15	14
児童施設	4	6
社会福祉協議会	2	1
NPO法人	0	6
企業(計)	22	44
医療福祉	6	9
飲食・宿泊業	2	3
販売・小売業	10	14
金融・保険業	1	4
サービス業	1	3
製造業	0	5
その他	2	6
公務員・教員(計)	4	6
警察	0	1
市町村	0	3
高校(私学含む)	2	1
小学校・養護学校	2	1

職種

	1期生	2期生
介護職	117	123
相談援助職	27	42
福祉専門職	1	1
営業職	12	26
事務職	4	12
教員・保育士	5	3
その他	2	2

1期生 (15年度)
卒業者総数

180



卒業生の推移、
就職先業種と人数



福祉・医療施設
就職先と人数

1 学校行事

卒業式 白山市松任文化会館にて。3・18

第二回の卒業証書、学位記授与式が、三月十八日に白山市松任文化会館にて行われ、三百二十五人が社会人としての自覚を胸に果立つていきました。式では加藤理事長が告辞を述べ、本田学長が「自覚と責任を両翼に大きく羽ばたいてほしい」との言葉を贈りました。

続いて角光雄白山市長、実盛祥隆後援会長が祝辞を述べ、在学生代表の田中宏治さんの送辞に対し、卒業生代表の塙田紀子さんが「この大学で得られた経験を糧に、広く社会に貢献していきたい」と答辞を述べました。

終了後、会場を金沢市内に移し、卒業パーティーが盛大に開催されました。

入学式 白山市松任文化会館にて。4・2

四月二日、第六回の入学式が行われ、二百十九人が意欲を新たに大学生活をスタートしました。

加藤理事長が告辞を述べ、本田学長が「社会人予備軍として、ボランティア精神を生かしてほしい」と激励しました。角光雄白山市長、徳田同市議会議長、実盛祥隆後援会長が祝辞を述べ、最後に新入生を代表して、吉谷寛美さんが「同じ夢を持つ仲間たちと充実した生活を送りたい」と宣誓をしました。



新入生歓迎会 5・11

今回は、従来の形式を大幅に変更し、ブース形式でのサークル紹介を行いました。新入生が興味のあるクラブ・サークルの先輩に直接説明を受けたり、質問することができ、より充実した内容とすることができました。さらに、キンボール部・音楽部・ダンス部によるステージ発表で、会場は活気にあふれていました。

オープンキャンパス 6・18 7・18 7・31 8・28 9・18 9・19

年々増加する参加者に対応するため、志願したヤル気溢れるキャンバスマガジン(CGL)達はミニ講義やクラブ・サークル紹介、研究室訪問などを通じて大学の良さを伝えようと懸命な姿を見せてくれました。その他に



全員が協力し、企画・運営することができ、大成功の『金城万博』となりました。(実行委員長／尾塙 苑)

意義ある新入生歓迎会とするため、五ヶ月をかけ実行委員会が協力し、企画・運営することができ、昨年以上に充実した『金城万博』となりました。(実行委員長／尾塙 苑)



(入試広報室長／丹後 榮)

ふれていきました。校内ウオーカラリーでは、校内に用意された『金城クイズ』に挑戦しながら交流を深めました。

第三十回金城祭が開催、二十九日はあいにく雨の中でスタートしましたが、午後の「HOME MADE 家族」によるゲストライブが始まると雨もおさまり、大いに盛り上がりました。翌三十日は絶好の晴天に恵まれ、各種イベント・模擬店・ゼミ発表等が行われ、学生達も二日間のお祭りを楽しんでいました。多数のご来場ありがとうございました。

金城祭 10・29～30

第三十回金城祭が開催、二十九日はあいにく雨の中でスタートしましたが、午後の「HOME MADE 家族」によるゲストライブが始まると雨もおさまり、大いに盛り上がりました。翌三十日は絶好の晴天に恵まれ、各種イベント・模擬店・ゼミ発表等が行われ、学生達も二日間のお祭りを楽しんでいました。多数のご来場ありがとうございました。

2 クラブ活動

Cultural and Sporting Activities

卓球部・全国大会上位進出を目指して

全国大会上位進出を目指し、日々練習に取り組んでいます。

【試合結果】(T:団体、W:ダブルス、S:シングルス)春季北信越学生大会(男子W優勝女子T・W・S優勝)、全日本大学対抗大会(女子Tベスト16)、夏季北信越学生大会(男子W・S優勝女子T・W・S優勝)、全日本学生大会(男子Sベスト16)、秋季北信越学生大会(男子W・S優勝、女子T・W・S優勝)、北信越学生新人大会(女子T・W・S優勝) (学生代表／西見 明香)

女子バレーボール部

今年も全国大会に参加しました。

ウインターリーグ優勝、北陸三県学生春季リーグ戦一部準優勝、東日本大学選手権大会大会ベスト32、北陸三県学生秋



活動レポート



- 硬式野球部、準軟式野球部、硬式テニス部、バスケットボール部、バドミントン部、陸上部が、地域での勝利、上位進出を目指し、練習を行い、諸大会に登場しました。
- 硬式野球部・北陸大学野球連盟春季リーグ戦一勝六敗、金沢市長杯一勝一敗、北陸大学野球連盟新人戦大会一回戦負け、北陸大学野球連盟秋季リーグ戦六敗（学生代表／杉原久美子）
- 準硬式野球部・春季大会予選敗退（対金沢大学工学部、星稜大学、金沢美術大学、一勝二敗）、秋季大会一回戦敗退（対上越教育大学）（学生代表／大橋自無）
- 硬式テニス部・全日本学生テニス選手権大会本戦（女子S二回戦、女子W一回戦）、北信越テニスメント大会本戦（女子S二回戦、女子W優勝）（学生代表／田嶋祐介）
- バスケットボール部・北信越学生バスケットボール春季リーグ戦大会 男子は四部Bで全勝優勝、女子三部で強豪相手に健闘。（学生代表／上田祐一）
- バドミントン部・星稜短期大学・北陸大学との練習試合。当面は大会に出で競える実力をつけることが目標です。（学生代表／土居岸孝次）
- 陸上部・北信越学生陸上競技対抗選手権大会（女子円盤投げ四位）、石川県陸上競技選手権大会（男子百メートル走出場）、北信越学生陸上競技選手権大会（男子百メートル走出場）（学生代表／三谷昌弘）



- 第四回宮城オープンキンボール大会（優勝、準優勝）、第三回長野県キンボールオーブン大会（男子の部、混合の部優勝）、第一回鳥取キンボール大会（優勝、準優勝）、第一回キンボール日本海カップ（優勝、第三回キンボール国際大会inベルギー（男子の部、女子の部 準優勝銀メダル）（学生代表／山口寛勝）
- LIBRA・各種フリーマーケットに出店しました。以下出店実績です。ハーバーガーデン（七月）、金沢夕ぐれ祭（七月）、洋
- 管弦樂部・十日北陸三県大学学生交歓芸術祭に参加、花、里の秋、雪を演奏。金城祭では、講師の先生、短大の加藤先生と遠藤先生を招いてクラシックコンサートで演奏。十一月に、県立音楽堂にて日本の四季を演奏しました。（学生代表／杉浦尚子）
- レディオ音楽隊・練習は週二回（火・水）笠間公民館で行っています。内容は、基礎練習や曲練習を各自で行い、簡単な合奏もします。（学生代表／中島武洋）

キンボール部 全国、国際大会に。

- 硬式野球部、準軟式野球部、硬式テニス部、バスケットボール部、バドミントン部、陸上部が、地域での勝利、上位進出を目指し、練習を行い、諸大会に登場しました。
- 硬式野球部・北陸大学野球連盟春季リーグ戦一勝六敗、金沢市長杯一勝一敗、北陸大学野球連盟新人戦大会一回戦負け、北陸大学野球連盟秋季リーグ戦六敗（学生代表／杉原久美子）
- 準硬式野球部・春季大会予選敗退（対金沢大学工学部、星稜大学、金沢美術大学、一勝二敗）、秋季大会一回戦敗退（対上越教育大学）（学生代表／大橋自無）
- 硬式テニス部・全日本学生テニス選手権大会本戦（女子S二回戦、女子W一回戦）、北信越テニスメント大会本戦（女子S二回戻、女子W優勝）（学生代表／田嶋祐介）
- バスケットボール部・北信越学生バスケットボール春季リーグ戦大会 男子は四部Bで全勝優勝、女子三部で強豪相手に健闘。（学生代表／上田祐一）
- バドミントン部・星稜短期大学・北陸大学との練習試合。当面は大会に出で競える実力をつけることが目標です。（学生代表／土居岸孝次）
- 陸上部・北信越学生陸上競技対抗選手権大会（女子円盤投げ四位）、石川県陸上競技選手権大会（男子百メートル走出場）、北信越学生陸上競技選手権大会（男子百メートル走出場）（学生代表／三谷昌弘）

- 管弦樂部・十日北陸三県大学学生交歓芸術祭に参加、花、里の秋、雪を演奏。金城祭では、講師の先生、短大の加藤先生と遠藤先生を招いてクラシックコンサートで演奏。十一月に、県立音楽堂にて日本の四季を演奏しました。（学生代表／杉浦尚子）
- レディオ音楽隊・練習は週二回（火・水）笠間公民館で行っています。内容は、基礎練習や曲練習を各自で行い、簡単な合奏もします。（学生代表／中島武洋）
- LIBRA・各種フリーマーケットに出店しました。以下出店実績です。ハーバーガーデン（七月）、金沢夕ぐれ祭（七月）、洋



Topics

3トピック

白山市との共同事業「プロジェクト・ウエルネス」を開催。 11・28

昨年に続き、白山市と本学が連携して進めていた健康増進事業（プロジェクト・ウエルネス）の研究発表会が、白山市民交流センターで開催されました。

本田学長、市の部課長ら約百名が出席し、市民の健康増進策を提案しました。二年生及び三年生のゼミ生がそれぞれ

四月より市民アンケートや、居住区域の違いによる生活りズムや食事の献立、高齢者を対象にADL及び体力テスト、手取川のラフティングについて、白山市の社会福祉の歴史などを調査し、身体に関するトレーニングの効果や総合的な検討、利便性や欠点、改善点などをまとめ上げ、発表しました。白山市では、発表内容を検討して行政施策に反映していく予定です。

- 短大部と共同で公開講座を開催 11・5～12・3 短大部との共同事業として、地域住民を対象として公開講座を実施しました。（毎週土曜日 計五回 全九講座）
- 今年度は白山市誕生記念「あなたのまちの大学で一緒に学ぼう」と題して、両学部の教授・講師陣による地域・生活に根付いた講義が多く行われ、たいへん好評なうちに全日程を終了することができました。
- 本学では、公開講座を専門的教育的機能と学習機会の提供をねらいとして毎年実施しています。今後も、本学の社会貢献の一環として多種多様な講座を開講していきたと考えていますので、是非ご参加ください。



金城祭（十、十一月）、金沢もてなしドーム（十一月）、収益金や物資は海外支援に活用します。（学生代表／森 浩美）

季リーグ戦一部準優勝、秋季北信越大学選手権大会1部準優勝、全日本大学選手権大会ベスト64まで、シッティングバレー（障害者スポーツ）の大会にも参加しました。（学生代表／高橋由香里）

ダンス部 毎週二回（月、金）リズム室で練習しています。八月、24時間テレビにてボランティア活動を、九月、鶴来よさこいカーニバルに参加し、グランプリ（市長賞）を受賞、また三日間の強化合宿を実施し、遊学館高校定期演奏会に参加、十月、地域生活支援交流ハウスふらっと五周年記念祭、金城一〇一周年記念メモリアルライブ、金城祭参加、十二月、自主公演サードボイルドを、それぞれ開催しました。（学生代表／両木孝輔）

その他文化系クラブ

- 音楽部 レディオ音楽隊、箏曲部、LIBRAが活動しています。音楽部・LIBRAが活動しています。
- 音楽部・三月に石川県立音楽堂にて県内の大学音楽系サークルが集まり演奏する、学都・いしかわ大学祭に参加。七月、主催ライブミニケルズカフェにて開催。金城祭では野外ステージライブ「KINJO REVOLUTION」を行いました。（学生代表／炭田拓哉）

- 管弦樂部・十日北陸三県大学学生交歓芸術祭に参加、花、里の秋、雪を演奏。金城祭では、講師の先生、短大の加藤先生と遠藤先生を招いてクラシックコンサートで演奏。十一月に、県立音楽堂にて日本の四季を演奏しました。（学生代表／杉浦尚子）
- レディオ音楽隊・練習は週二回（火・水）笠間公民館で行っています。内容は、基礎練習や曲練習を各自で行い、簡単な合奏もします。（学生代表／中島武洋）
- LIBRA・各種フリーマーケットに出店しました。以下出店実績です。ハーバーガーデン（七月）、金沢夕ぐれ祭（七月）、洋

喫煙マナー回上・禁煙推進キャンペーン

11・28～12・2

二月、世界保健機構(WHO)において「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」が発効しました。これによつてわが国は、公共の場所における効果的な分煙措置、たばこ製品の販売促進の禁止(または制限)などが義務づけられました。

本学も、短大部とともに、学友会が主となり喫煙マナー向上・禁煙推進キャンペーンを主催しました。啓発運動として、ボスターの掲示、吸殻拾い、禁煙商品の配布などを率先的に行いました。



新入生合宿研修(フレッシュキャンプ)を実施

次年度より、新入生合宿研修を予定しています。フレッシュマンキャンプとも呼ばれ、学生相互および学生と教員間の親睦を深めること、入学時の不安や学ぶことの意義を語り合い、今後の学生生活の過ごし方を考える契機とするなど、福祉の現場で要求されるコミュニケーションのスキルを学ぶことを目的として、平成十八年四月二十一日～二十二日に国立能登青年の家(羽咋市)にて実施する予定です。

福祉先進国を体感 北欧福祉研修 2・20～25

社会福祉を専門に勉強する学生が、福祉先進国である北欧社会を見て、体験し、高度な理論と実践を学ぶ機会を提供するため、平成十七年度から企画・実施しました。昨年十一月一日から五日、ベルギーのリエージュ市で「スウェーデン障害研究所」の社会福祉の専門家向けプログラムに参加し、講義や七か所のディケアセンターなどの施設を回り、研修を行ってきました。また出発前にも事前研修を行いました。国際的な福祉を学び、将来に活かせる貴重な体験となりました。参加学生の体験レポートは次号に



掲載予定です。

個別相談会を開催予定

保護者の皆様が大学に対してお持ちの疑問・心等に答え、よりきめ細かなサービスを提供するため、次年度より、後援会の総会開催日に個別相談会を実施する予定です。予め個別面談の希望の有無を調査し、希望をする保護者の皆さまに、学生の修学状況、就職支援状況を説明し、個別相談等を行います。相談したい内容についても把握できるよう仕組み・体制を整えます。

また、各学年で取得単位数が一定以下の学生に対しては特に配慮していくかと思います。

Extracurricular Activities

4 体育系スポーツ

キンボール国際大会に、日本代表として出場 銀メダル獲得。

昨年十一月一日から五日、ベルギーのリエージュ市で〔KIN-BALL World Cup 2005〕(第三回キンボール国際大会)が開催されました。今回は六力国集まつての大会となりました。



金城大学からは、田中宏治・高尾哲也・福田広志・府中暢樹・門野紗織・阿部友紀・酒井千明の計七名がそれぞれ男子の部・女子の部で日本代表として選出され、日の丸を背負い世界の舞台で戦いました。チームはいずれも関西国際大学との混成チームでした。六チームの総当たり戦で予選三試合を行つた結果、男女とも決勝に進出しました。

決勝戦の結果、日本は男女ともに準優勝。キンボール発祥の地であるカナダが三連覇を成し遂げ、三位はフランスでした。



5 学園情報

Kinjo News

金城学園10周年記念事業が開催

●金城学園白山美術館開館 11・1

記念事業の一つとして、白山市河内町に白山美術館が開館しました。

ドーム型の開放感あふれる空間が特徴で、開館記念式では、学園や地元関係者、学生ら約三百人が出席しました。加

会で銀メダルという、素晴らしい結果と思い出を残すことできました。

前回の国際大会でも金城大学から四名が選手として出場し、準優勝でした。次回は二年後にフランス、またはカナダで第四回大会が開催されそうです。また金城大学から日本代表が選出されるように、今後よりいつそう練習に励みたいと思います。(キンボール部／酒井千明)(関連記事／特集 田中宏治)

活動レポート

● その他の記念事業

その他の事業として、メモリアルライブ（十一月・石川県厚生年金会館大ホール）、遊学館高校定期演奏会（九月・金沢市文化ホール）、同校バトンワーリング部演技発表会（十一月・金沢市観光会館）、短期大学部美術学科の同窓生



藤理事長が「ここから世界へ羽ばたく芸術家が育つてほしい」と挨拶され、角市長代理で出席された北田収入役、田中県議が祝辞を述べられ、続いて中川、山田両県議が加わり丁寧な挨拶が行われました。

また、同日より十一月三十日までの期間で、非常勤講師を含む短大部美術学科教員による開館記念作品展「アカデミア金城06展」が開催されました。今後も地域社会貢献の一環として、さまざまな作品展を企画していきます。（住所／白山市河内町吉岡東一〇八一）



平成17年度 役員・委員氏名

（敬称略）

役 員	会 長	実盛祥隆		
	副 会 長	琴坂幸広	村 中 玲 子	
	会 計 監 査	島 時 次	八島 美 弥 介	
委 員	4 年 生	太田順司	堅田義光	白江将二
		山本淑江	荒井雅子	西田茂喜
		徳田清美	宮井雄司	山村正親
委 員	3 年 生	青江初美	浅井二郎	土居岸直美
		前田茂男	西本清一	中野仁美
		酒井光夫	林 彰吾	益江 守
委 員	2 年 生	岩倉正信	田中郁子	德田由美子
		舟木茂則	細川悦夫	橋本友江
		高山俊彦	谷内口信弘	横山弘美
委 員	1 年 生	岩本 剛	瀬戸久美子	奥村寿子
		坂本真美	西村修一	松村裕子
		四柳一子	梶 由紀子	畠山幸雄

平成十七年度後援会総会・懇親会実施報告 及び役員・委員紹介

美術展（八月・金沢21世紀美術館）、同学科卒業制作展（二月・石川県立美術館）、コーラス部定期演奏会（十二月・金沢市文化会館ホール）、大学・短大部ダンス部公演（十一月・野々市町文化会館フォルテ）などが行われました。

また、中長期計画として、遊

学館高校の校舎改築、大学新学部（医療健康学部（仮称））棟の建設などが進められています。



総会では、実盛祥隆後援会長、本田昂学長の挨拶に始まり、役員・委員の新体制が承認されました。また平成十六年に出席いただきました。

六月二十五日、後援会総会及び懇親会を本学大講義室にて開催しました。保護者八十七名（学校関係者を含む）

意見を頂き、参加した教職員にとてもたいへん有意義な意見交換の場となりました。



その後、軽食を囲みながら行われた懇親会では、保護者の皆様から学内生活、成績、就職、教育内容等について多くのご意見を頂きました。



四つの教訓



運動会を見守る加藤せむ

加藤せむ

から二年も待たずして、四十一歳の短い生涯を閉じました。廣吉は緒についたばかりの事業と、六人の子供ら十二人の家族を残して世を去りました。学校はまだ校舎もなく、休業中の機業場の一角を借用し、生徒四十名、職員は六名ばかりの姿でした。せむは当時、金沢市の長町小学校に奉職していましたが、今後の措置を如何にすべきか途方に暮れました。親戚の人たちと職員の方々が集まって相談会を開いてくださいましたが、その意見では学校を廃止し、子供は二人ばかり里子にすること、これより他に術がないとの結論でした。しかし、せむは、その意見に従いませんでした。

廣吉は格別健康な体であつたにも拘らず、この事業のために犠牲になつたので、せむにとつて夫の命に代えた事業を廃止することは、義においても、情においても耐えがたいところでした。また、子供もさて手離すとなればどの子にするかといとおしくて、とにかく自分の手で育てたく思いました。それでせつかくのご親切なご意見でも、同意することはどうしてもできませんでした。一身を賭して行けるところまで行きますことを賛成していただきたいと、せむは答えました。

決断したせむは、さつそく行動しました。校長から小間使い、校舎の掃除も済ませ、それから勤務先の長町小学校へ出勤。それが終わると事務処理にあたり、夜は家の賄いをすませ、提灯一本を下げ金策に走りました。しかし学校運営の資金は一向に集まりませんでした。富山や能登にも足を伸ばしました。

同情の厚い方々から借りては一方に返し、また借りては返し、返してはまた借りるなど日夜やりくりに苦心します。寄付金募集もやつてみましたが、名も知られぬ学校のことゆえ、いただけても零細な額でした。自宅も借金のため人手に渡っていました。それでも、有志の寄付は一銭たりとも無駄にはできません。たとえ五厘でもいただいた皆様のことはすべて綴りました。せむは、正しいことは神仏のご加護あることと信じて生き抜きました。天は自ら助くる者を助け給うの信念をもって、自らに慰め、鞭を打ちつつ、一歩一歩進めて参りました。

そして、大切な生徒たちには、「四つの教訓」を伝えました。口ばかりの人、虚栄の奴隸たる人、我利主義の人、薄情の人、こんな人だけにはならないようにと。

本文は、本校創始者の一人である、加藤せむ先生が著書「四十年の思ひ出」で書かれた文章と、当時の資料に基づき、現代の皆様へのメッセージとして、百周年を記念して編さんしたものです。

かとう せむ 一八六九年二月、金沢市生まれ。その後、石川県柏野村(現白山市)に移転する。一八九一年石川県尋常師範科を卒業し、同年美川小学校訓導となる。一八九三年、小原広吉と結婚。一八九七年、金沢市長町小学校で教鞭をとる。一九〇四年、広吉とともに金沢市に私塾「金城遊學館」を創設。翌年金城女学校を開校する。二年後、広吉が急逝し、小学校教員を兼務し独立で学校経営に当たる。一九三一年、校長に就任。「良妻賢母の育成」を目標とし、率先垂範の教えの礎を築く。一九五三年、文部大臣賞を受賞。一九五六年、藍綬褒章を受賞。同年十一月死去。

メッセージ

KIND